

令和6年度研修医奨励賞受賞者が決定

新潟県医師会では若手医師が医師会活動への理解を深め、今後医師会として取り組むべき課題や対策について考える機会を与えることを目的として研修医奨励賞を行っている。令和6年度も審査の結果、以下のとおり受賞者が決定した。令和7年度の募集案内は本年11月頃、県医師会報および県医ホームページに掲載の予定である。今後も多数の応募をお願いしたい。

研修医奨励賞最優秀賞（10万円×1件）

- 千 手 孝太郎（下越病院）
「医師不足に立ち向かう若手医師の挑戦：若手医師支部会設立の提案」

研修医奨励賞優秀賞（7万円×3件）

- 馬 源（下越病院）
「外国人医師の活用で構築する地域医療の未来」
- 澤 田 泰 成（糸魚川総合病院）
「糸魚川総合病院での初期臨床研修から考察する今後の上越地域医療のあり方」
- 芳 中 亮 太（佐渡総合病院）
「2025年問題の先へ～2040年の世界からの提言～」

研修医奨励賞（3万円×6件）

- 本 間 滯 夏（上越総合病院）
「同一地域で働き続けるという選択肢」
- 柳 佳 輝（長岡中央総合病院）
「新潟県における医療資源不足を解消するにはマイナンバーカード」
- 安 川 信太郎（新潟医療センター）
「沖縄県と新潟県の違いから垣間見える新潟県の医療体制の課題」
- 小 林 奎 介（長岡赤十字病院）
「医師患者間における医療知識の隔たり解消に向けた情報整備とその活用」
- 中 澤 徹（長岡中央総合病院）
「新潟県の医師不足問題を考える～県内で働き続ける医師を増やすには～」
- 菊 地 慶 彦（糸魚川総合病院）
「糸魚川から見る高齢社会における救急要請の増加とその対応策について」

（敬 称 略）